

平成25年度  
茨城県学校長会  
県南バロック研修会  
報告書



主催 茨城県学校長会県南バロック協議会

## 第1分科会

研究主題 「教育課程の実施」 ～創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施～

講師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	江原 保子 先生
発表者	石岡市立瓦会小学校長	櫻井 光好
〃	つくば市立春日学園校長	岡野 和夫
司会者	つくば市立吾妻小学校長	土田十司作
記録者	石岡市立東成井小学校長	菊池 彰

### 午前の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

#### 2 主な協議内容

##### (1) 組織目標を達成するための評価の在り方について

教職員一人一人が意欲的に学校の課題を解決するために、どのような評価の工夫をしているか。

- ・ 約3か月という短期のスパンで評価し、成果を確認するとともに、次に取り組むべき課題を明確にしている。
- ・ 以上のような取組により、教師も児童一人一人のよさを積極的に評価しほめるようになり、児童の自己有用感を高めるといった課題が達成されつつある。

##### (2) 学校の課題を共通理解するための工夫について

学校の課題を全職員に共通理解させるために、各校ではどのような工夫をしているか。

- ・ 「校長だより」により課題に対する理解を深めるようにしている。
- ・ 課題について校内研修の充実を図っている。外部講師の活用も効果的である。
- ・ 校長が学校経営のキーワード（「交わる」）に基づき撮りためた写真を、各種たより用に教頭、教務主任に選ばせることで、三者が同一歩調で学校経営に当たれるようにしている。

##### (3) 学力向上への取組について

学力向上を課題とする学校は多い。どのような手だてが有効か。

- ・ 中学校では、担任に空き時間に自学級の授業を見に行かせ、授業力の向上に努めている。
- ・ 最近の授業では児童に多様な意見を出させているが、その時間の目標に到達していない場合も多い。そこで、授業のまとめにおける学習内容の定着を重視し、成果を上げている。

##### (4) 地域・保護者との連携について

学校経営における地域・保護者との連携で、教育効果を上げるために留意すべきことは何か。

- ・ PTAや地域の方々に、機会があるごとに学校の課題を伝えている。学校が目指すところを一貫してその都度伝えていくことが大切である。

#### 3 講師指導内容

学校の課題を明確にするために、実態を多面的に分析して組織目標につなげている。学校経営のリーダーとして大切な視点である。

年度始めに学校の課題を丁寧に教職員に説明し、教職員の意識を変えることで成果を上げているところもすばらしい。

各職員の組織の中での位置付けを明確にすることで、学校全体という視点から教育活動を捉えられるようにしている。ミドルアップダウンの考え方や方策も有効に機能しており、このことは、人材育成にもつながっている。

課題解決のためのミニ研修は、参加しやすい取組である。

RPDCAサイクルにおいて、評価は大切である。学校評価等において、学校の課題が評価の観点になっていることで、その後の有効な改善につなげることができる。

保護者、地域の方々が、学校に来て初めて課題を理解できたという例も多い。保護者・地域との連携は、学校の課題を広く理解してもらうためにも大切である。

### 午後の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

## 2 主な協議内容

### (1) 小中一貫教育における地域のコミュニティの立ち上げについて

新しい校区で小中一貫教育を推進するにあたり，地域のコミュニティはどのように立ち上げたか。

- ・ 登校班を編制することで，保護者同士がネットワークを築くことができた。
- ・ 読み聞かせや日本語指導のボランティア活動も，保護者同士が知り合う機会となっている。

### (2) 小中一貫教育における組織づくりについて

小中一貫教育において，PTAや児童・生徒会等はどのように組織しているか。

- ・ PTAは小中を併せて一つの組織である。代表（会長）は小中全体から互選で選出している。
- ・ 生徒会は5～9年生で組織している。委員会活動も5年生から始まる。
- ・ 小中一貫校においては，校長は1名の方が学校経営をしやすいと思われる。

### (3) 分離型の小中一貫教育の現状について

分離型の小中一貫教育の課題，よさ及び経営上の留意点は何か。

- ・ 課題は，児童・生徒の移動の方法や経費，職員研修や打合せの時間の確保，小中両校種の教職員の意識の共有，中期生の意欲の低下等である。対応策として，児童・生徒の交流についてはTV会議システムの活用を，打合せについては学校間の連絡会の週時程への位置付けを行っている。
- ・ よさは，両校種の教員がお互いの指導法を理解することで，指導力の向上を図ることができることなどである。
- ・ 経営上の留意点として，両校種の校長が共通理解を図り対応することが肝要である。

### (4) 小中一貫教育の教職員への負担について

小中一貫教育における教職員への負担や負担感についてはどうか。

- ・ 新しい実践に楽しんで取り組む雰囲気大切にしている。教職員は新しい学校をつくるという意識で，前向きに取り組んでいる。
- ・ 教科担任制も全職員で分担するので，負担は少ない。

### (5) 小中一貫教育の本質について

改めて，小中一貫教育の目指すもの，つまり根底にある本質は何か。

- ・ 子どもの成長，発達に連続的であり，それに沿った教育を行うことを考えれば，小中一貫教育は当然である。
- ・ 「交流」は手段，「一貫」は理念であることを踏まえ，明確な目標のもと，内容に系統性をもたせた取組をしていくことが大切である。

## 3 講師指導内容

小中一貫教育は，これからの教育の在り方として注目されている。最近の新聞報道でも取り上げられ，中一ギャップの解消や学力向上，豊かな人間性がはぐくまれるなどの成果や，6，7年生に役割の自覚や自己有用感をもたせることなどの課題が報告されている。

「一貫」ではなく「連携」でもよいので，9年間を見通して指導に当たるといった教員の意識改革を図ることが大切である。

学校間の空間的な隔たりには，ICTの活用が考えられる。小中一貫教育コーディネーターを置くことも有効である。

各学区の実態に応じてカリキュラムを見直し，効果的・効率的な小中連携・一貫教育を推進したい。また，新しい学校づくりにおいては，地域との連携を図ることも大切である。

小中連携・一貫教育推進のためにも，若い教員の小中両免の取得を進めたい。

## 第2分科会

研究主題「教育課程の実施」～基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導～

講師	茨城県県南教育事務所学校教育課長	青山 晴美 先生
発表者	つくば市立桜南小学校長	黒澤 明良
"	美浦村立美浦中学校長	小松 正樹
司会者	美浦村立大谷小学校長	朝日向栄一
記録者	つくば市立並木小学校長	天貝 貢

### 午前の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

#### 2 主な協議内容

小中一貫学園内3校の校長の意見交換，打ち合わせはどのように行っているのか。

- ・ 学園内の校長会は，毎月1回半日の時間で，意見交換を行っている。初期の段階では，児童生徒の交流活動を中心に行っていたが，現在は内容を大事にしている。学園での一貫教育を進めていくと，教員や備品等，学校の財産や資源が2倍3倍に増えたように感じる。

ワークショップ型研修での校長の関わりについて教えてほしい。また，教員の多忙感の解消にはどのような配慮をしているか。

- ・ 学力向上に関するワークショップやレポート作成の研修では，自己申告書に関する内容を利用したり，時間の区切りを明確にしたりすることで，多忙感が生じないよう工夫した。また，校長は，流れを示すだけで，運営は教務主任に任すようにしている。
- ・ 多忙感は，自分が役に立っているかどうかで大きく異なる。資料を皆で作ったり，皆で共有化したりすることにより多忙感はもちにくくなる。また，会議の時間を少なくするなどの工夫をしている。

中学校の教員は忙しく，研修の時間がなかなかとれない。本校では，学園内の小学校の研究授業を参観することにより，特に若い教員の資質向上に役立っている。

時数のカウントをすることを通して，教師の意識が変わったとの表現があるが，それはなぜか，詳しく知りたい。

- ・ 時数計算を何のために行うのかを意識してほしかった。教員の意識改革の資料として，時数表を作成したという意図がある。時数計算は單元ごとに行うべきという考えから，週時数を入れる感覚でできるよう自分で作成した。その成果として，限られた時間内で何が身に付いたかを考えられるような教師が育ってきた。

#### 3 講師指導内容

データ分析のできる視点・観点を校長がもっているからこそ，R P D C Aが回る。その根本は，校長の目でありそこに校長の役割がある。

信頼される学校には，信頼に値する校長と教師たちがいる。学校組織を底上げするための根底には，校長の熱意，決断力，タイミング等が必要。学校経営は，相手が人間であり，学級経営と同じ。

資料が，A4版1枚にまとめられており，とても見やすく，意義がある。

データに基づいた発表であり，教師集団のベクトルを一方向に向ける説得力があると同時に，教師のまとまりを高めることができる内容である。

最近では，ワークショップ型の研修が多い。少人数であること，話ができるということ，悩みを聞いてもらえて満足する等の利点がある。ミドルリーダー研修会では，クリティカルリーディングの話し合いを取り入れている。言葉に表すことが成果につながっていると感じる。このような，話し合いによる研修がさらに広がってほしいものである。

何が身に付いたのか，読み取れない指導案を見かける。子どもの何が変わったかを問うことで授業者自身の力が上がる。そのためには，V T Rも効果的である。

校長が，校舎内を一周するときの観点を職員へ明示することで，教師が変化する。視点をどう変えるか，教室を回るとき，いろいろな視点で歩き，知らせることが大切になる。柔軟な発想による取り組みで学校が変わっていくことを祈っている。

### 午後の部

## 1 発表内容（発表要項を参照）

### 2 主な協議内容

教育委員会と連携して学力向上を図っているようだが、ノーテレビデイ・ノーゲームデイの取り組みをもう少し詳しく聞きたい。

- ・ 村が主導してスローガンを掲げて始まった。教育長が、社会力の育成という観点で、取り組みを先導している。社会力とは、人と人がつながる力だと教育長は話している。2年が経ち、見る番組を自分で決める、時間を決めて本を読む、進んでテレビを消す等の成果は出ている。さらに、幼稚園等の低年齢の子への重点化を考えている。

自尊心を高めるため、職員には、努めてほめるよう話しているが、なかなかうまくいかない。アドバイスをお願いしたい。

- ・ 毎朝、昇降口に立ち挨拶している。約8割の生徒の名前を覚え、表情を見ると気持ち分かり、声かけをしている。週1回の職員の運営委員会では、いいことから伝えたり、学年の職員の中に入り生徒のよい点を積極的に伝えたりしながら、雰囲気作りに努めている。また、便りやホームページ、全校集会等でもPRをしている。

中学校には「教科の壁」があり、校内研修が一様にできないところがある。工夫している点はどんなところか。

- ・ 「教えて考えさせる授業」を合い言葉に取り組んでいる。授業研を全員が行うのは難しいが、我々はチェックするのが仕事と思い、授業を見てコメントを伝えるようにしている。教育長は、学力向上から脱却し社会力を高めることに主眼を置いており、結果として学力が向上している。

美浦村の適応教室について、さらに詳しく教えてほしい。

- ・ 村の適応教室は、不登校児童生徒のための施設であり、非常勤のカウンセラーと3名の相談員が常駐している。さらに、校内にも適応教室がある。普段は誰も居ないが、学校へ登校できるようになると、そこで相談員と学習に取り組んでいる。

教員評価面談で、配慮したことは何か。

- ・ 先生たちは、皆まじめで全てのことをきちんとやらないといけないと思っている。そこで、物差しを1つだけにして、分かる授業をどうするかだけを組織目標として掲げた。目標を焦点化し無駄を省きたかった。全体として矛盾が出るかもしれないが、簡単に申告書を作ってくれと指示した。

### 3 講師指導

どうやって教師の質を高めるかが大切。同じ中学校区なのに、授業で課題を囲むチョークの色が違っている。そんな些細なことが起因となり、不登校にまで発展するという可能性も、今の時代にはないとは言えない。細かなところまで考慮しなければいけない。道徳コーナーの無い教室があったり、貼り重ねている教室があったりする。何がいいのかは、実態を見て、子どもをどう育てるかを考え、共通実践ができると中一ギャップも少なくなる。

同じ中学区内の他校の教室等を見ていない管理職が多い。階段のステップに掲示をよく見かけるが、生徒が作成し、時々貼り替えている学校があった。そんな学校の子どもは、学習面においても意欲が違う。そのようなところからも、まだまだ話し合うポイントが見つかるのではないか。

プリンタで印刷した文字が並んだ教室がよくある。ぬくもりのある文字は作れないのか。美浦中学校は様々な取り組みをしているが、黙働の出来る学校であることがとても素晴らしい。生徒指導便りも素晴らしい。生徒が覚えやすい名前を付けているのがよい。「正義は必ず勝利する」メッセージをあちこちに貼りたいと思った。

「会議を充実させても効率化は図れる」という言葉は、目から鱗だった。生み出すのは教師の努力である。

校長の学校経営力でミドルリーダーを育てたい。体験して分かることがたくさんある。立場が人を育てるのであり、若い先生をフォローしてほしい。学校の中で、いろいろなチャンスを与えている校長は素晴らしい。校内人事で人を育てることや、若い人を育てる視点で人事異動を考えることが必要である。

### 第3分科会

研究主題「心の教育の充実」～多様な体験活動を生かした心を育てる教育～

講師	茨城県南教育事務所人事課管理主事	栗山 賢司 先生
発表者	取手市立桜が丘小学校長	川村由紀夫
〃	龍ヶ崎市立城南中学校長	戸部 明彦
司会者	龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校長	酒井 和美
記録者	取手市立戸頭西小学校長	椎名 和良

#### 午前の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

#### 2 主な協議内容

##### (1) 発表に対する質問や意見

東日本大震災以来、地域と連携しての防災訓練は学校の大きな課題であり使命であるが、それを円滑に進めるためには、学校の三者、PTA役員、区長等の連携が必須である。特に炊き出し訓練の様子を聞きたい。また、小中連携教育も聞きたい。

・炊き出し訓練は、平成24年度が豚汁（子どもは試食できなかった。自治会のみ）平成25年度がレトルトのごはん作りを行った。小中連携については、夏季休業中に藤代南中学校区の全職員で集まり、学習指導部会・生徒指導部会等を開催した。また児童生徒間の交流については、教務主任が企画・立案を行っている。

桜が丘小学校では、質の高い体験活動が行われており、それには校長のリーダーシップが様々などところに生かされているが、特に校長として留意していることは何か。

・第一に、評価と改善の関わりを大事にしている。子どもに振り返りカードを書かせることでその内容で評価し、やめる決断をすることも大事と考えている。第二に、本校の3つのプロジェクトへの関わりを大事にしている。三者とプロジェクトの長で集まる機会を設け、進捗状況を確認している。第三に、各プロジェクトの長には、教頭・教務主任を直接あたらせている。

子どもたちの心を耕すうえで、読書活動を推進しているが、本校では、火曜日に1・2年生に読み聞かせを実施し、また50冊・100冊・150冊読んだ児童には学校独自に表彰を行っている。しかし、読解力については伸びていない。桜が丘小ではどうか。

・学校賞は是非やってみたい。子どもたちに本をいっぱい読ませたい。たくさん本を読んだ児童をプレミア会員ということで図書室に掲示したり、金の台本版にしたりして意欲を高めている。古い本は思い切って廃棄し、本の選定は子どもたちにやらせている。また、家庭に眠っている本を寄贈してもらつなどして、蔵書数を増やしている。しかし、読解力については、本校も課題がある。

課題のところで、負担感をあげているが、誰のどんな負担なのかお聞きしたい。

・担任が、この学年になったらやらなくてはならないという負担感がある。思い切ってやめるのも一案。しかし、自分の時にやめられないという思いもある。

##### (2) 心の教育の充実を図る上で、校長として一番大切にしていることは何か。

子どもたちと教師のふれあいの中で、すてきな眼差しでのあいさつを大事にしている。しかし、地域の人たちへのあいさつは、気持ちよくできていないにもかかわらず、学校評価での保護者からはよい結果となっている。保護者の連携の充実と、取手市のようにゲストティーチャーを呼び、地域や高齢者など学校以外の人とのふれあいが大切だと感じる。

学校外のあいさつでは、登校中、横断歩道でクルマが止まったとき児童が会釈し、そのクルマのドライバーから本をいただいたことがある。

牛久二小のあいさつがよかった。正門が狭く二人くらいしか通れない。一人一人と校長が握手してあいさつを交わしていった。一つのことを継続して繰り返しやっていくことが大事である。

#### 3 講師指導内容

校内研修の位置づけについて

教育経営の課題を明確にとらえ、校内研修の充実を学校経営の中核に捉えているところ。素晴らしい特に研修は、教師の「みが合いの場」であるので大切にしたい。

ゲストティーチャー等の活用と体験活動について

感動を与え、心に響く体験活動を計画的に実践している。校長として人材ネットワークをつくり、活動のねらい・学習支援者としてのGT・負担の軽減の3つを考えながら実践することが、マネジメント型管理職であり、チームとして課題解決に取り組むことになる。マネジメントを円滑に進めるためには、課題を細かく見て、課題を発見することであるが、これからの教職員に必要な資質でもある。

教職員や地域の方々へのねぎらいの言葉かけについて

ねぎらいの言葉かけも、マネジメントの一つである。教頭先生をはじめ教職員や協力をいただいた地域の方々を認めることで、より一層教育活動を進める原動力となる。

小中連携（一貫）教育について

小中連携を進めるにあたり、特に施設分離型の場合、課題となるのが、日程の調整である。いつ研修会をもつのか等、年度初めに連携における年間計画を作成して、きちんと入れておく。つくば市の連携の成果であるが、不登校出現率の減少、学力向上、自尊感情・規範意識の向上等があげられる。

地域と連携した防災訓練について

自分たちの生活は地域で守られているという実感が味わえる、また児童生徒の視野の広がり

が期待できる教育活動である。最近では、地域コミュニティーの弱体化が言われているのが、連携の必要性を強く感じる。

#### 午後の部

### 1 発表内容（発表要項を参照）

#### 2 主な協議内容

##### (1) 発表に対する質問や意見

全職員の提案をまとめた「チームJONANの戦略」の活用の仕方と、資料2「学年リーダーの育成と学年組織の活性化」についてお聞きしたい。

・H25 チーム「JONAN」の戦略（案）を全職員に配り、教員一人一人が課題と考えている項目について具体的な戦略を記入し、回収してまとめる。そして、教員評価の面談で、自己目標設定に活用している。2つ目の質問については、学年リーダーの先生に、資料の4ページの「城南中学校学校生活調査結果」を基に、具体的方策を考えさせている。また、余談ではあるが、調査からは、生徒の言い分を聞かずに教師の一方的な指導の割合が高くなると、ストレス教師の数値が高くなる。

しっかりした教育理念が職員に反映し、子どもへの教育活動につながっている。生徒の自尊感情を育てるためには、生徒会活動の役割が重要であるが、中中連携として中学校生徒会活動の連携の変化についてお聞きしたい。

・市内一中学校に、全中学校の生徒会役員が集まり、会場校の生徒も参加して行われている。昨年度までは、テーマを決めて取り組んでいたが、今年度は市全体でのテーマは決めていない。各中学校の生徒会の取組の発表を参考に、他の学校のよい活動を取り入れてきた。社会的問題（いじめ等）についての議論を行った年もあった。

保護者・地域組織との連携を校長自ら出向いて関わりをつくっていくことは、非常に大事である。どこまで担当者に任せ、どこから校長が自分でやっているかお聞きしたい。

・本校の実態からすると、地域とは切り離せない。必ず校長が出向くことで、地域からの本音の情報も得られる。

##### (2) 人間関係を豊かにするためには様々な人との交流（ふれあい）が大切であるが、各学校でどのように進めているか。また、小学校の児童会活動はどうか。

今の子どもたちは人間関係づくりが難しい。本校では、縦割り活動を定期的に行い、名刺交換会や縦割り清掃を実施している。しかし、重要なのは、学校で一番長い時間、つまり授業中での子どもたちの関わりをどうつくっていくかである。

城南中は一人親の家庭も多く、学校教育に大きく影響している中で「一人の子どもも見捨てるな!」の言葉のもと、職員が一丸となっているところが素晴らしい。中中連携で、市内6つの中学校が集まり、他の中学校を知るきっかけとなっているところがよい。

校長としての生き様を感じる。また、職員に進むべきベクトルを示すことで、参画意識が高揚し、リーダーの育成をデータをもとに行っていることが参考となった。素晴らしいことは、無理をしないで長続きしていることで、年間計画に組み入れることが大事である。小学校の自治活動については、児童会がないので、様々な活動が輪番制になっていて、リーダーが育たない。委員会の主な児童を集めて、無理のない範囲で、時間と場の設定を図っている。また、児童の発表する場として、月に1回児童集会を開いている。

##### (3) フリートーク

中中連携において、中学校職員の小学校への出前授業は、職員にとって大きな負担になるのではないかと。

土浦8中学校校区で、来年度から中中連携（一貫）教育を開始する。真鍋小に非常勤3名を配置し、二中に入って授業を進めている。

中中連携で、あいさつ運動は効果的である。

### 3 講師指導内容

発表全体と通しての感想から

自尊意識（感情）とは、自分を大切に思う気持ちである。日本の子どもは国際的にみても低い。特に、日本の女子高生は自分が太っていると感じている。また、校長室だよりにより、学校ビジョンを掲載したり、月ごとや行事ごとに達成感を持たせたりしていることが素晴らしい。

生徒会活動について

継続しているリボン運動やあいさつ運動が素晴らしい。生徒会で分担し全生徒があいさつ運動に参加することで、あらたな人間関係ができ、さらには教師に褒められることで次第に自尊感情が育ってくる。あいさつは、教職員も大切にしていきたい。また、生徒会活動は、教科指導、道徳や特別活動等の関連で進めていって欲しい。

中中連携（一貫）教育について

児童生徒間交流は、効果が小中相互にあることが前提である。視点として広報活動が大事で、どう伝えどう協力していただくか。9年間の学びの連続性のために、系統表を作成する。しかし、教師はがんばったのに保護者には反応が少ない場合がある。そこで、陸上記録会の練習を小中で行うなどの工夫が必要である、そうすることで、魅力的な取組となり関心も高まる。

自尊感情を育てる方法について

1 自分のよさに気づき、自信を持たせる支援をすること、2 集団で自分の役割を果たすこと、3 自分の力でやり遂げる体験を積むこと、4 子どもを認め褒める機会や場を設定することの4点である

## 第4分科会

研究主題「心の教育の充実 ～規範意識を育て、豊かな人間性や社会性を育む生徒指導～」

講師 県南教育事務所主任生徒指導主事

兼生徒指導班長 鈴木不二男先生

発表者 土浦市立神立小学校長 廣原 高志

〃 牛久市立牛久第二中学校長 岩田 博

司会者 牛久市立下根中学校長 藤ヶ崎 敦

記録者 土浦市立上大津小学校長 羽鳥 文雄

### 午前の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

「規範意識を育て、豊かな人間性や社会性を育む生徒指導 ～児童の規範意識を育むための指導の工夫～」

#### 2 主な協議内容 \*グループ協議 全体協議

全体構想が明確で、キーワード、プレゼン力、職員のアイデアを生かす姿勢が素晴らしい。「規範の学び - 規範の内面化 - 規範の行動化」が参考になった。

実践が単発で終わることなく、総合的・組織的・計画的に行われている。

Q 学校経営の理念を職員に浸透させるために、校長はどのように「しかけ」をするのか。

A 校長が方針を示し、職員に任せるところは任せ、新しいアイデアを引き出すことを心がけている。職員の意欲を失わせないようにコントロールしていく。小学校段階でやるべきことをしっかりと身につけさせてから、中学校に子どもを送りたい。

Q 規範意識を高めるために、「小中連携」の取組をどのように行っているのか。

A 学習の手引き作成やノート展などの「学力向上」や、標語・あいさつ運動などの「生活指導」に、中学校区で積極的に連携して取り組んでいる。

Q 内面化の順番はこの位置でいいのか。行動化の後に内面化がくるのではないか。

A 心を育てるために、この位置に入れた。行動化と内面化が並列の場合もあるし、行動化の後に内面化がくる場合もある。その辺は弾力的に考えている。

Q 家庭への働きかけをどのように行っているのか。

A 学校から家庭に積極的にアプローチし、個別的なつながりを強めていく。親と顔を合わせて、話（協力依頼）をする。

#### 3 講師指導内容

- ・「カカトぴたっと」「立腰」「視写」「暗唱」など体験活動が豊富で、小学校段階から地道に根気強く指導されている成果が発表に表れていた。
- ・「規範の学び - 内面化 - 行動化」には、家庭や地域社会の協力・啓発が必要であり、どんな方法で取り組んでいくかをよく考えてほしい。
- ・構造図やスローガン（「マ・モ・ル」「根・知・和」）など、子どもや職員に目に見える形で表すことが大事である。
- ・物的環境とともに人的環境（人間関係）を整えていくと、子どもの心が豊かになる。
- ・「アイチェック」など客観的なデータを分析し、子どもと教師の意識のズレを確認することが大切である。
- ・経験の少ない子どもたちに体験の機会を多く与え、スキルの習得をさせたい。
- ・校長の思いを職員に伝え、職員に方策や手立てを考えてもらうことが大事である。
- ・規範意識は、人としての生きる上でのルールである。「ならぬものはならぬ（会津藩）」、「当たり前十か条」、「江戸しぐさ」などを活用して指導していくと効果的である。
- ・よい習慣（規範）が身につくと、集団の中での「一人勝手」は許されなくなる。

## 午後の部

### 1 発表内容（発表要項を参照）

「学びの共同体としての学校づくりにおける児童生徒の豊かな人間性の育成 ～一人一人の学びと人間関係を育てる授業づくり～」

### 2 主な協議内容 \*グループ協議 全体協議

市全体で（市長，教育長，校長会が一体となって）取り組んでいることが素晴らしい。学校全体で組織的に取り組んでいることが参考になった。

授業を大事にしていることがよい。学力向上でも生徒指導でも，授業の充実が欠かせない。

授業研究では，生徒の表情を注意深く見る視点は，授業改善につながっている。

学び合いは通常，「学力向上」に視点を当てるが，人間関係にも視点を当てていることがよい。生徒の気づきが増えて，生徒同士で認め合うことができるようになる。これらが，学級経営の基盤となっている。

生徒の実態を的確に捉え，生徒同士で磨き合わせている。

グループ協議では，授業づくりのために「教科担任制」を取り入れたり，学習課題を明確にしたりしている学校の様子を聞くことができ，参考になった。

Q 活動システムで，「小中とも男女4人グループ」にしている意義は何か。

A グループ学習にはねらいがあるので，小グループで話し合いを深めたいときに取り入れている。数が多いとお客様になる。目的によって人数を替えることもある。

Q 「わからないことをつなぐ」とはどういうことなのか。

A 教師が「わかった人？」と聞くと，わかった人が手を挙げて教師が流してしまう傾向にある。「どこがわからなかった？」と聞くよりも，「さんがわからないところはどこなのか？」を生徒に考えさせた方が学び合いになる。

### 3 講師指導内容

- ・学び合いは学習指導だけでなく，いろいろな場面で活用できるものである。
- ・学びの共同体は，学級経営や生徒指導にもつながっている。授業の中で，学級経営や生徒指導ができる。（良好な人間関係づくり，相互理解など）
- ・生徒の自尊感情を高めるために，養護教諭や学校司書なども入れた全職員で考えることが大切である。協議もみんなで，「面と面（顔と顔）」をつき合わせて行くとよい。
- ・授業づくりは，ほおっておいてはダメで，「人とのかかわり」をもたせることで授業がよくなる。（生徒指導も同じである。）
- ・「あこがれの授業」を見る機会を増やしたい。また，「自分が一番」だと誇れるような（自慢できるような）授業ができるように，職員に指導したい。
- ・授業づくりの中では，「聞く，戻す，つなげる，響き合わせる」ことが必要である。そのためには，教師の観察力や力量をどう育てるかが求められる。
- ・「学びをどのように活性化させるか」が課題である。自分がいいと思うことを，挑戦し続けることが大事である。  
生徒指導・心の教育について
- ・子どもを怒るだけでなく，子どもとコミュニケーションを上手にとる。
- ・子どもや保護者の心にとび込むことが大事であり，「どうすればいいか？」を職員に考えさせ，とにかく実践してみる。
- ・タイムリーな詩や言葉などを職員や生徒に紹介する。
- ・校長としてのリーダーシップを発揮し，校長自ら健康で笑顔を振りまいてほしい。

## 第5分科会

### 研究主題「学校経営の改善と現職教育の推進」

～家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携のあり方～

講師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	山田 典明 先生
発表者	稲敷市立柴崎小学校長	高橋 雅之
	守谷市立けやき台中学校長	辺見 芳宏
司会者	守谷市立松前台小学校長	岡野 昌信
記録者	稲敷市立根本小学校長	鈴木 利子

#### 午前の部

##### 1 発表内容（発表要項を参照）

##### 2 主な協議内容 発表に対する質問や意見

閉校を地域の人と一緒に迎えるための校長としての仕事について

- ・ 閉校までの段取りをしっかりと理解し、リーダーとして計画的に進めることが大切である。しかし、市教育委員会の思いを地域の人に理解してもらうのに時間がかかり、計画通りにいかないことも多い。
- ・ 計画を軌道修正しながら進める力量が校長として求められる。
- ・ 柴崎小の閉校準備委員会のように地域の人との参加型にすると、いろいろな人の協力が得られて、よい閉校が迎えられる。

閉校準備だけでなく、新設校への準備も同時に行わなければならない。さまざまな視点での準備計画が必要になってくる。それぞれの担当者が共通理解するまでにかかる時間を確保するのは困難ではないか。

- ・ 新設校は、「三校が一緒になる」という視点で、三校それぞれの立場で進めることが大切である。
- ・ 統合する前年度に、三校合同の行事を重ねると、児童は、新設校でよい良いスタートを切ることができる。校外学習等で各学年単位で交流するとより質の高い教育活動が展開できる。
- ・ 統合で小中連携がしやすくなる。小学校にも中学校にも互いにプラスになるようなカリキュラムを創っていくことが重要である。

##### 3 講師指導内容

統廃合問題について

- ・ 県の指針に従って進めていく。  
「小学校は、クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級が望ましい。」  
「中学校は、クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。」
- ・ 適正配置は、児童生徒にとってより良い教育環境の改善整備となる。  
「円滑な閉校」のために
- ・ 138年の長い歴史には、すべての住民がかかわっている学校と言ってもよい。学校は、情報の発信源であり、地域のシンボルとなっている。
- ・ 地域住民の思いを大切に対応すること。
- ・ 閉校を機会に明確な目標を立て、閉校記念を形にしていく。地域への啓発新設校での「より良いスタート」ができるために
- ・ 学校の基盤作り・・・職員へ正しい情報を伝えていく。
- ・ 組織作り（人事）・・・職員の気持ちを大切に PTA組織（人選）の推進

- ・ 教育課程・・・小中連携の姿勢で。小中一貫教育も視野に入れて。  
9年間を見通したカリキュラムづくり・中学校を見通した約束ごと

## 午後の部

### 1 発表内容（発表要項を参照）

### 2 主な協議内容 発表に対する質問や意見

#### 保護者と校長の交流会について

- ・ 1年生の保護者の参加が全体の半分。残りが2，3年生の保護者。
- ・ 事前に保護者の知りたいことを希望用紙に記入するので，校長として保護者の考えを把握することができる。

- ・ スマホの研修と日にちを合わせたことで，保護者としても参加しやすい。

部活動など時間的にゆとりのない教育活動の中で，どうしたら地域に応える学校になることができるか。

- ・ これからは，学校から地域に出て行く，地域に働きかけることが大切である。
- ・ 地域のクリーン作戦や募金活動など，できることから始めたい。
- ・ 老人ホーム訪問などは，行政から頼まれたとはいえ，地域の民生委員と連携したり，生徒にとっても意味ある活動である。

地域の協力として，人材活用が大切になってくるのではないか。

- ・ 地域の実態によって，人材活用方法が違ってくる。「地域へ発信する学校」「地域へ貢献する子どもの育成」が大切。

#### 小中との連携について

- ・ 中学校から小学校へ行くことが多いが，中学校の取組に小学校を取り入れた計画を立てていくことも大切である。

### 3 講師指導内容

地域と取り組む学校の意義が明確にされている。

- ・ 校長として，人との出会いを大切に作る姿勢が，人の輪を広げ，その後の教育活動を豊かにしている。

- ・ ぶれない校長としての構想が，実践に明確に伝わっている。

外部人材は，生徒が本物に触れるよい機会である。しかし，注意すべきことは，全職員で共通理解していく。

- ・ 外部指導者は補助者であり，あくまでも教師が指導者である

- ・ 秘密は必ず守る ・ 言動は注意する ・ 登録者は，できるだけ活用する人材を活用してキャリア教育に深まりを

- ・ 「郷土愛が高まる」「地域の人に見守られている」「多彩な職業の人との出会い」「大学生の活用」など豊かな体験が期待できる。

日常的な活動として，地域に貢献していくことが課題となる。

- ・ 迎えるばかりでなく，こちらから出向くことも大切。

校長のリーダーシップを発揮する。

- ・ 教頭，教務主任と連携して，全職員一丸となって学校を運営していく。

## 第6分科会

研究主題 「学校経営の改善と現職教育の推進」

研究内容 人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育

講師	茨城県南教育事務所人事課長	児島 裕治先生
発表者	かすみがうら市立六倉小学校	大山 徳
同	つくばみらい市立伊奈中学校	秋田 昌彦
司会者	つくばみらい市立伊奈東中学校	小林 昌朋
記録者	かすみがうら市立安飾小学校	大川 洋子

### 午前の部

#### 1 発表内容（発表要項を参照）

#### 2 主な協議内容（質問や感想等）

特別支援教育（配慮を必要とする子への対応）について

- ・特別支援学級担当に任せきりにせず、全職員が情報を共有し指導に当たる。外部講師も招聘し全職員で校内研修を実施し専門性を高めることで、他の児童にも良い影響を与えている。

校内研修について

- ・一斉授業からの脱却をねらい、授業改善について研修している。先進校の授業を参観し「課題提示」「検討の仕方」等を参考にし授業改善に生かしている。
- ・授業研究を進めていることで、先生方が自信をもって生き生きと授業を展開していることは素晴らしいと感じた。
- ・専門性を高める研修はあるが、人間性を高める研修は難しい。校長として人間性豊かな教師を育てるためには、「子どもに求めることことは自分にも求める」という視点を教師がもつよう職員に伝えている。

学校経営の改善について

- ・先生方へは、授業参観した際に学校教育目標と関連させながら声かけを続けることで、経営方針の周知徹底を図っている。

保護者アンケートの活用について

- ・回収し懸案事項が書かれているときには、すぐに対応に当たる。また、アンケートの集計内容は、保護者会の話題にしたり、個別の声かけの参考にしたりと反映させている。保護者アンケートは、情報を得ることにおいて有効であると考え。さらに、「足で稼ぐ、目で稼ぐ、耳で稼ぐ」を実行するなど日々の観察も重視している。

教職員の経営参画（教職員に仕事を任せる）について

- ・任せた仕事については、まずは計画させ、立案する上での疑問は周りの先生に聞くことで、互いに学び合う体制を整えている。実行した後は、ねぎらいの言葉かけをしている。
- ・人間関係作りの校内研修を実施している。講師は本校職員が担当し校内に広めていることで教職員の参画意識に繋がることを期待している。

#### 3 講師指導

小規模校における現職教育の推進について

- ・発表校では、経験豊富な教師が多い職員構成の学校の課題に対応するため、外部講師を招聘したり、先進校への視察や自主研修の勧めなどを積極的に取り入れたりと、常に学び続ける教員の育成に努めている。
- ・教師の指導力に関しては、先生方一人一人の校内研修への参加態度や貢献度といったものを観察評価して指導力向上に向けた具体的な指導助言を行うとともに、一人一人の生涯設計やキャリア形成といった視点からも指導助言を行うことが校長に期待されている。

安全確保や服務規律の確保について校長の役割（3つの視点）

- ・危機の範囲をできるだけ広く想定すること。
- ・想定した危機への対処法を検討しておくこと。（備えあれば憂いなし）
- ・危機への予測や危機発生時のシュミレーションを実施することは当然であるという組織風土を醸成すること。当事者意識・本校の教員は子どもたちを守れるのか、我が校は危機に強い組織

なのかといった点を評価しておくこと。

- ・ 服務規律の確保を含めて危機への対応，魅力のある教員の育成が急務になっている。そのためには，先生方の意識改革を促すための校長の指導が大きくかかわってきている。
- ・ 教師が自分の意思で教師としての力量を高めようとするのを援助すること，一人一人の教職員を理解して励ますこと，実践を見せ合って語り合い学び合う雰囲気を作ること等，経営者としての校長の厳しさと温かさによって，すべての教員が最後まで勤め上げるだけの力量形成を図り続けてほしい。

## 午後の部

### 1 発表内容（発表要項を参照）

### 2 主な協議内容（質問や感想等）

校長の経営理念を浸透させることについて

- ・ 勤務形態の異なる講師が多数配置されている現状を踏まえ，機会あることに声かけを行っている。具体的施策については，成果を上げていることは基本的に継続していきたいと考えている。職員が同じ方向を見ることが大切であり，そのひとつとして感謝の言葉かけをしている。

授業力向上について

- ・ 数学科では全時間ＴＴの授業を行っており，英語や理科も一部ＴＴ指導を行っている。ＴＴ指導については，成果を数値で示しながら職員に協力を促している。校長も教室に行き，先生方をねぎらうようにしている。打ち合わせの時間の確保が難しいため，個人カルテをつくり毎時間の様子を次時の担当に引き継いでいる。ＴＴでの授業展開は主に役割分担で行っている。
- ・ 授業の相互参観を勧めている。本年度の研究テーマは基礎基本の定着であるため，研究テーマに沿って教科を超えて参観するように指導している。
- ・ 講師も授業研究に参加し授業力向上に積極的に取り組んでいる。高め合う教職員集団を目指している。

小中連携について

- ・ 伊奈中校区の定例校長会の日に話し合いをもっている。中学校の学校だよりを通学区域の小学校６年生の教室に掲示している。

家庭の教育力を高める手立てについて

- ・ 毎月の学校公開日を設定しているが参観者が少ないため，工夫を図ることや各種たより，HP等で情報発信や啓発に努めている。

学習習慣の定着のための手立てについて

- ・ 毎日家庭学習を提出している生徒を，全校生徒の前で表彰し意欲付けを図っている。家庭学習をやっているにもかかわらず提出率は低いことが課題である。

### 3 講師指導

発表校では，校長のリーダーシップの下，教員相互の参観や情報交換の時間の確保の工夫，中学校には空き時間があるという常識の意識を変え，全員でＴＴを組み授業改善を行うなど，教員の指導力を高めるための経営戦略がなされ，成果をあげている。

生徒指導や教科指導等，学校の課題が多い中でも教員にやりがいをもたせる目標を設定したり，悩みを一人で抱えない人間関係，風通しのいい連携がとれた組織づくりなど，親和的な組織風土を構築することが，校長には期待されている。

校内研修について

- ・ ＯＪＴを活用するなど，同僚や先輩教員から指導助言を請うなど日常的な内輪の研修は，中学校では有効に働く。研究授業の振り返りを昼休みに短時間で言うなど場や時間の工夫をしている例もある。

それぞれの立場やそれぞれのライフステージに応じた教職員の育成について

- ・ 若手には，これからの教師に求められる姿を解いて聞かせ，展望と計画をもって研修に取り組めるよう励ます。中堅には，校長としての期待，今後身に付けるべき資質や能力を説明し伝える。ベテランには，どのような力を身に付けたか十分に聞き，そして本人の希望，校長の期待を話し合う。主任等には，自己目標を明確にした育成プランを話し合うことが重要である。

